



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年2月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 タカラトミー

コード番号 7867 URL <http://www.takaratomy.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 一洋

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員連結管理本部長 (氏名) 沓澤 浩也

TEL 03-5654-1548

四半期報告書提出予定日 平成30年2月13日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|-------------|---------|-----|--------|------|--------|------|----------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年3月期第3四半期 | 141,077 | 7.1 | 13,714 | 33.4 | 13,498 | 28.0 | 9,789 | 24.5 |
| 29年3月期第3四半期 | 131,707 | 2.8 | 10,280 | 82.1 | 10,542 | 99.2 | 7,865 | ー |

（注）包括利益 30年3月期第3四半期 10,221百万円（△13.3%） 29年3月期第3四半期 11,794百万円（ー%）

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期第3四半期 | 104.29 | 103.03 |
| 29年3月期第3四半期 | 91.07 | 89.77 |

（2）連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 30年3月期第3四半期 | 156,125 | 61,448 | 39.0 | 646.30 |
| 29年3月期 | 157,693 | 51,611 | 32.4 | 548.45 |

（参考）自己資本 30年3月期第3四半期 60,856百万円 29年3月期 51,062百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期 | ー | 5.00 | ー | 5.00 | 10.00 |
| 30年3月期 | ー | 7.00 | ー | ー | ー |
| 30年3月期（予想） | ー | ー | ー | 7.00 | 14.00 |

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|-----|--------|------|--------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 177,000 | 5.6 | 11,500 | 48.5 | 11,500 | 47.0 | 7,000 | 30.3 | 74.58 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 30年3月期3Q | 96,290,850株 | 29年3月期 | 96,290,850株 |
| ② 期末自己株式数 | 30年3月期3Q | 2,129,810株 | 29年3月期 | 3,186,873株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 30年3月期3Q | 93,862,909株 | 29年3月期3Q | 86,370,261株 |

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

今後の見通しにつきましては、5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 5 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 5 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 9 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 10 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 11 |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 11 |
| (四半期連結損益計算書関係) | 11 |
| (セグメント情報) | 12 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(2018年3月期第3四半期連結累計期間におけるハイライト)

- 売上高は、141,077百万円(前年同期比7.1%増)となりました。国内及びアジア市場での玩具販売が好調に推移したことに加え、「トランスフォーマー」「ベイブレードバースト」の海外向け輸出が増加したことによるものです。
- 営業利益は大幅に増加し13,714百万円(前年同期比33.4%増)となりました。売上高伸長に伴う売上総利益の増加に加え、海外ビジネスにおける収益性の改善が進んだことによるものです。
- 経常利益は、13,498百万円(前年同期比28.0%増)となりました。為替差益が減少したものの、営業利益が大幅に良化したことによるものです。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、9,789百万円(前年同期比24.5%増)となりました。経常利益が大幅に増加したことによるものです。
- 国内市場においては、2017年に50周年を迎えた「リカちゃん」や、テレビアニメ「トミカハイパーレスキュー ドライブヘッド」関連商品をはじめとした定番商品が好調に推移いたしました。また、「スナックワールド」「COZMO」などの話題商品を積極的に投入いたしました。年末商戦においては、「ベイブレードバースト」や「うまれて!ウーモ」の人气が継続したことに加え、当社初となる女兒向け特撮テレビシリーズ「ミラクルちゅーんず!」や風船アートが楽しめる手作りホビー玩具「ウーニーズ」などの新商品が好評を博しました。
- 海外事業の立て直しに取り組んでいるTOMY Internationalグループにおいては、ベビー関連商品などの販売が低調に推移したものの、前期に実施した一部商品の値引き販売が減少したことなどから、収益性が改善いたしました。

(経営成績の概況)
<セグメント別業績の概況>

(単位：百万円)

| | 2017年3月期 第3四半期 | 2018年3月期 第3四半期 | 増減 | 増減率(%) |
|---------------|-------------------|-------------------|--------|--------|
| 売上高 | 131,707 | 141,077 | 9,370 | 7.1 |
| 日本 | 104,618 | 116,827 | 12,209 | 11.7 |
| アメリカズ | 22,687 | 18,959 | △3,728 | △16.4 |
| 欧州 | 7,008 | 6,138 | △869 | △12.4 |
| オセアニア | 1,801 | 1,801 | 0 | 0.0 |
| アジア | 37,089 | 44,079 | 6,989 | 18.8 |
| 消去又は全社 | △41,498 | △46,728 | △5,230 | — |
| 営業利益又は営業損失(△) | 10,280 | 13,714 | 3,433 | 33.4 |
| 日本 | 11,433 | 14,158 | 2,724 | 23.8 |
| アメリカズ | 373 | 62 | △311 | △83.3 |
| 欧州 | △255 | △24 | 230 | — |
| オセアニア | 12 | 39 | 27 | 222.6 |
| アジア | 723 | 986 | 262 | 36.3 |
| 消去又は全社 | △2,007 | △1,507 | 499 | — |

<日本>

(単位：百万円)

| | 2017年3月期 第3四半期 | 2018年3月期 第3四半期 | 増減 |
|------|-------------------|-------------------|--------|
| 売上高 | 104,618 | 116,827 | 12,209 |
| 営業利益 | 11,433 | 14,158 | 2,724 |

日本では、定番商品において、2017年に50周年を迎えた「リカちゃん」が多くのメディアで取り上げられたことなどから、関連商品の販売が伸長するとともに、「トミカ」では当社原作のテレビアニメ「トミカハイパーレスキュー ドライブヘッド」が好評を得ました。新規商品においては、テレビアニメ・漫画・ゲームソフトなどでも展開している「スナックワールド」の関連商品や、AI搭載ロボット「COZMO」などを積極的に市場投入いたしました。

また、夏に映画が公開された「トランスフォーマー」や北米・欧州でテレビアニメが放送されている「ベイブレードバースト」の海外向け輸出が大幅に増加いたしました。

さらに、年末商戦においては、次世代ベーゴマ「ベイブレードバースト」やタマゴを孵化させ楽しむ新感覚ペット「うまれて！ウーモ」の人气が継続したことに加え、当社初となる女兒向け特撮テレビシリーズ「ミラクルちゅーんず！」や風船アートが楽しめる手作りホビー玩具「ウーニーズ」などの新商品が好評を博しました。

(株)タカラトミーアーツにおいては、空港で展開するカプセル自販機「空港ガチャ」や「究極のTKG（たまごかけごはん）」などのクッキング玩具関連商品がメディアで多数紹介され大きな話題となりました。

以上のとおり、売上高は116,827百万円(前年同期比11.7%増)と大幅に伸長いたしました。また、販売費及び一般管理費が増加したものの、売上高伸長に伴い売上総利益が増えたことにより、営業利益は14,158百万円(同23.8%増)と大幅に増加いたしました。

<アメリカズ>

(単位：百万円)

| | 2017年3月期 第3四半期 | 2018年3月期 第3四半期 | 増減 |
|------|-------------------|-------------------|--------|
| 売上高 | 22,687 | 18,959 | △3,728 |
| 営業利益 | 373 | 62 | △311 |

アメリカズでは、再建策の一環として“収益性改善を目的とした事業の集中と選択”を推進しており、ベビー用品や農耕車両玩具など6つの主力ブランドへ経営資源を集中しております。農耕車両玩具の販売が堅調に推移したものの、ベビー用品及びキャラクター関連玩具の販売が低調であったことなどから、売上高は18,959百万円(前年同期比16.4%減)となりました。なお、営業利益は62百万円(同83.3%減)と引き続き黒字化することができました。

<欧州>

(単位：百万円)

| | 2017年3月期 第3四半期 | 2018年3月期 第3四半期 | 増減 |
|---------|-------------------|-------------------|------|
| 売上高 | 7,008 | 6,138 | △869 |
| 営業損失(△) | △255 | △24 | 230 |

欧州においては、「ポケモン」関連玩具であるフィギュアやぬいぐるみなどの販売が好調に推移したものの、ベビー用品やプリスクール関連商品の販売が減少したことなどにより、売上高は6,138百万円(前年同期比12.4%減)となりました。なお、前期に実施した一部商品の値引き販売の減少による売上総利益の増加などにより、営業損失は24百万円(前年同期営業損失255百万円)と改善いたしました。

<オセアニア>

(単位：百万円)

| | 2017年3月期 第3四半期 | 2018年3月期 第3四半期 | 増減 |
|------|-------------------|-------------------|----|
| 売上高 | 1,801 | 1,801 | 0 |
| 営業利益 | 12 | 39 | 27 |

オセアニアでは、ベビー用品「The First Years」やプリスクール商品に加え、「ポケモン」関連玩具の販売が堅調に推移したことなどから、売上高が1,801百万円(前年同期比0.0%増)、営業利益は39百万円(同222.6%増)となりました。

<アジア>

(単位：百万円)

| | 2017年3月期 第3四半期 | 2018年3月期 第3四半期 | 増減 |
|------|-------------------|-------------------|-------|
| 売上高 | 37,089 | 44,079 | 6,989 |
| 営業利益 | 723 | 986 | 262 |

アジアでは、次世代ベージュ「バイブレードバースト」が韓国、香港、台湾に続く東南アジア各地でのテレビアニメ放送に加え、店頭マーケティングの強化も奏功し、商品の販売が好調に推移いたしました。また、「ポケモン」関連玩具が好評を博すとともに、2017年夏に映画公開された「トランスフォーマー」関連玩具の出荷が増えたため、売上高は44,079百万円(前年同期比18.8%増)、営業利益は986百万円(同36.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

[資産、負債及び純資産の状況]

<資産>

流動資産は、前連結会計年度末に比較して345百万円減少し、102,545百万円となりました。これは主として、受取手形及び売掛金、商品及び製品が増加した一方で、現金及び預金が減少したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比較して1,210百万円減少し、53,562百万円となりました。これは主として、投資その他の資産が増加した一方で、無形固定資産が減少したことによるものです。

<負債>

流動負債は、前連結会計年度末に比較して4,470百万円増加し、48,120百万円となりました。これは主として、未払金が減少した一方で、支払手形及び買掛金、未払法人税等が増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比較して15,875百万円減少し、46,557百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことによるものです。

<純資産>

純資産は、前連結会計年度末に比較して9,836百万円増加し、61,448百万円となりました。これは主として、利益剰余金が増加したこと、及び自己株式の処分があったことによるものです。

[キャッシュ・フローの状況]

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」)は、前連結会計年度末に比較して17,149百万円減少し、41,381百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,934百万円の収入(前年同四半期は8,418百万円の収入)となりました。これは主として、売上債権の増加14,872百万円、法人税等の支払額2,869百万円、たな卸資産の増加1,627百万円等があった一方で、税金等調整前四半期純利益12,980百万円、減価償却費6,176百万円、仕入債務の増加2,413百万円等があったことによるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,295百万円の支出(前年同四半期は3,415百万円の支出)となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出2,719百万円、無形固定資産の取得による支出912百万円等があったことによるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、16,943百万円の支出(前年同四半期は5,696百万円の支出)となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出15,201百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出2,269百万円等があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年10月27日公表のとおりであり、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|-----------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 58,623 | 41,477 |
| 受取手形及び売掛金 | 20,942 | 36,107 |
| 商品及び製品 | 13,982 | 15,887 |
| 仕掛品 | 328 | 467 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,286 | 1,123 |
| 繰延税金資産 | 1,931 | 1,810 |
| その他 | 5,965 | 5,881 |
| 貸倒引当金 | △168 | △210 |
| 流動資産合計 | 102,891 | 102,545 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 13,381 | 13,907 |
| 減価償却累計額 | △8,530 | △8,795 |
| 減損損失累計額 | △412 | △476 |
| 建物及び構築物（純額） | 4,437 | 4,635 |
| 機械装置及び運搬具 | 2,337 | 2,554 |
| 減価償却累計額 | △1,605 | △1,753 |
| 減損損失累計額 | △17 | △17 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 714 | 783 |
| 工具、器具及び備品 | 21,982 | 22,775 |
| 減価償却累計額 | △19,137 | △20,443 |
| 減損損失累計額 | △458 | △485 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 2,387 | 1,846 |
| 土地 | 4,194 | 4,095 |
| リース資産 | 7,762 | 7,556 |
| 減価償却累計額 | △4,161 | △3,575 |
| 減損損失累計額 | △0 | △0 |
| リース資産（純額） | 3,599 | 3,980 |
| 建設仮勘定 | 485 | 272 |
| 有形固定資産合計 | 15,819 | 15,613 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 20,468 | 19,518 |
| その他 | 13,446 | 12,662 |
| 無形固定資産合計 | 33,915 | 32,181 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,584 | 3,073 |
| 繰延税金資産 | 207 | 201 |
| その他 | 2,294 | 2,645 |
| 貸倒引当金 | △49 | △152 |
| 投資その他の資産合計 | 5,037 | 5,768 |
| 固定資産合計 | 54,772 | 53,562 |
| 繰延資産 | | |
| 社債発行費 | 29 | 17 |
| 繰延資産合計 | 29 | 17 |
| 資産合計 | 157,693 | 156,125 |

(単位:百万円)

| | 前連結会計年度 (平成29年3月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 9,477 | 11,913 |
| 短期借入金 | 7,099 | 7,580 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 4,408 | 4,418 |
| リース債務 | 2,287 | 2,598 |
| 未払金 | 7,809 | 7,071 |
| 未払費用 | 8,881 | 9,478 |
| 未払法人税等 | 2,038 | 2,816 |
| 引当金 | 712 | 1,019 |
| その他 | 934 | 1,223 |
| 流動負債合計 | 43,649 | 48,120 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 10,000 | 10,000 |
| 長期借入金 | 43,240 | 28,063 |
| リース債務 | 950 | 1,333 |
| 繰延税金負債 | 2,293 | 1,802 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 472 | 472 |
| 役員退職慰労引当金 | 141 | 139 |
| 退職給付に係る負債 | 3,034 | 2,730 |
| その他 | 2,300 | 2,015 |
| 固定負債合計 | 62,432 | 46,557 |
| 負債合計 | 106,082 | 94,677 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 3,459 | 3,459 |
| 資本剰余金 | 9,045 | 9,087 |
| 利益剰余金 | 29,264 | 37,708 |
| 自己株式 | △2,073 | △1,389 |
| 株主資本合計 | 39,696 | 48,865 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 735 | 1,118 |
| 繰延ヘッジ損益 | 1,133 | 1,002 |
| 土地再評価差額金 | 364 | 585 |
| 為替換算調整勘定 | 9,999 | 10,099 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △866 | △816 |
| その他の包括利益累計額合計 | 11,366 | 11,990 |
| 新株予約権 | 182 | 194 |
| 非支配株主持分 | 365 | 396 |
| 純資産合計 | 51,611 | 61,448 |
| 負債純資産合計 | 157,693 | 156,125 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) |
|------------------|--|--|
| 売上高 | 131,707 | 141,077 |
| 売上原価 | 80,216 | 82,785 |
| 売上総利益 | 51,490 | 58,291 |
| 販売費及び一般管理費 | 41,210 | 44,577 |
| 営業利益 | 10,280 | 13,714 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 73 | 150 |
| 為替差益 | 679 | 63 |
| 受取賃貸料 | 116 | 115 |
| その他 | 71 | 97 |
| 営業外収益合計 | 940 | 427 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 470 | 411 |
| その他 | 208 | 230 |
| 営業外費用合計 | 679 | 642 |
| 経常利益 | 10,542 | 13,498 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 13 | 20 |
| 新株予約権戻入益 | 55 | 8 |
| 偶発損失引当金戻入益 | 29 | — |
| 出資金売却益 | — | 207 |
| その他 | 3 | — |
| 特別利益合計 | 102 | 235 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 569 | 126 |
| 製品自主回収引当金繰入額 | — | 336 |
| 事業撤退損 | — | 245 |
| その他 | 6 | 45 |
| 特別損失合計 | 576 | 753 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 10,068 | 12,980 |
| 法人税等 | 2,175 | 3,160 |
| 四半期純利益 | 7,892 | 9,820 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 27 | 31 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 7,865 | 9,789 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 四半期純利益 | 7,892 | 9,820 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 21 | 383 |
| 繰延ヘッジ損益 | 2,405 | △130 |
| 為替換算調整勘定 | 1,465 | 97 |
| 退職給付に係る調整額 | 9 | 50 |
| その他の包括利益合計 | 3,902 | 401 |
| 四半期包括利益 | 11,794 | 10,221 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 11,767 | 10,189 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 27 | 31 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 10,068 | 12,980 |
| 減価償却費 | 5,412 | 6,176 |
| 減損損失 | 569 | 126 |
| のれん償却額 | 1,035 | 1,085 |
| 新株予約権戻入益 | △55 | △8 |
| 出資金売却益 | — | △207 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | △1 | 133 |
| 引当金の増減額(△は減少) | 126 | 294 |
| 偶発損失引当金の増減額(△は減少) | △29 | — |
| 役員退職慰労引当金の増減額(△は減少) | 6 | △3 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | △142 | △254 |
| 受取利息及び受取配当金 | △73 | △150 |
| 支払利息 | 470 | 411 |
| 為替差損益(△は益) | △120 | △319 |
| 有形固定資産売却損益(△は益) | △10 | △20 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △17,932 | △14,872 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 1,653 | △1,627 |
| 前払費用の増減額(△は増加) | 831 | △19 |
| 前渡金の増減額(△は増加) | 710 | 7 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 2,904 | 2,413 |
| 未払金の増減額(△は減少) | 1,572 | △382 |
| 未払費用の増減額(△は減少) | 2,848 | 387 |
| その他 | 686 | △93 |
| 小計 | 10,531 | 6,058 |
| 利息及び配当金の受取額 | 71 | 146 |
| 利息の支払額 | △462 | △402 |
| 特別退職金の支払額 | △217 | — |
| 法人税等の支払額 | △1,505 | △2,869 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 8,418 | 2,934 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △3,285 | △2,719 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △1,097 | △912 |
| 設備負担金による収入 | 812 | — |
| 出資金の売却による収入 | — | 207 |
| その他 | 155 | 128 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △3,415 | △3,295 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | △2,810 | 73 |
| 長期借入れによる収入 | 2,000 | — |
| 長期借入金の返済による支出 | △3,261 | △15,201 |
| 配当金の支払額 | △858 | △1,117 |
| セール・アンド・リースバックによる収入 | 1,625 | 905 |
| ファイナンス・リース債務の返済による支出 | △3,121 | △2,269 |
| 自己株式の処分による収入 | 738 | 674 |
| その他 | △9 | △7 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △5,696 | △16,943 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △142 | 154 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △836 | △17,149 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 39,902 | 58,530 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 39,066 | 41,381 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

減損損失

前第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

| 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失 (百万円) |
|-------|-----------------------------|----------------|---------------|
| 事業用資産 | 工具、器具及び備品、リース資産、無形固定資産(その他) | 東京都葛飾区 | 33 |
| 事業用資産 | 無形固定資産(その他) | 豪州ビクトリア州ダンデノン市 | 517 |
| 事業用資産 | 投資その他の資産(その他) | 香港カオロン地区 | 17 |

当社グループは、事業用資産については地域及び事業の関連性を基礎とした管理会計上の区分によるグルーピング、賃貸用資産、遊休資産については個々の物件をグルーピングの最小単位としております。

豪州の事業用資産については、一部のライセンス等について回収可能性が認められなくなったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失(517百万円)として特別損失に計上いたしました。なお、これらの資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、使用価値については、将来キャッシュ・フローが見込まれないことなどにより、零として評価しております。

その他、事業用資産については、継続的に営業損失を計上しており、かつ将来キャッシュ・フローの見積り総額が各資産の帳簿価額を下回ることなどにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失(51百万円)として特別損失に計上いたしました。なお、回収可能価額は正味売却価額または使用価値により測定しております。正味売却価額については、当該資産の廃棄を予定していることから零として評価しております。使用価値については、将来キャッシュ・フローが見込まれないことなどにより、零として評価しております。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

| 用途 | 種類 | 場所 | 減損損失 (百万円) |
|---------------------|----------------------|------------------------|---------------|
| 事業用資産のうち 厚生施設 | 土地 建物及び構築物 | 千葉県鎌ヶ谷市 | 110 |
| 事業用資産のうち 店舗(小売店) | 建物及び構築物 工具、器具及び備品 | 栃木県壬生町、栃木市、 真岡市、鹿沼市 | 16 |

当社グループは、事業用資産については地域及び事業の関連性を基礎とした管理会計上の区分によるグルーピング、賃貸用資産、遊休資産については個々の物件をグルーピングの最小単位としております。

上記の事業用資産のうち厚生施設については、売却を予定しているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(110百万円)として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額については、売却予定額により算定しております。

上記の事業用資産のうち店舗(小売店)については、売却契約の締結又は売却の意思決定に伴い回収可能価額と帳簿価額とを比較したところ、著しい乖離がみられるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失(16百万円)として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、正味売却価額については、売買契約等により算定しております。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 日本 | アメリカズ | 欧州 | オセアニア | アジア | 合計 |
|-------------------|---------|--------|-------|-------|--------|---------|
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 92,857 | 22,616 | 6,992 | 1,801 | 7,439 | 131,707 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 11,760 | 71 | 15 | — | 29,650 | 41,498 |
| 計 | 104,618 | 22,687 | 7,008 | 1,801 | 37,089 | 173,205 |
| セグメント利益又は損失(△) | 11,433 | 373 | △255 | 12 | 723 | 12,288 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|--------|
| 報告セグメント計 | 12,288 |
| セグメント間取引消去 | △37 |
| 全社費用(注) | △1,970 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 10,280 |

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 地域に関する情報

(単位:百万円)

| | 日本 | 北米 | | その他 | 合計 |
|-----|--------|--------|--------|--------|---------|
| | | | 内 アメリカ | | |
| 売上高 | 84,370 | 26,526 | 24,728 | 20,809 | 131,707 |

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 日本 | アメリカズ | 欧州 | オセアニア | アジア | 合計 |
|-------------------|---------|--------|-------|-------|--------|---------|
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 105,307 | 18,900 | 6,121 | 1,798 | 8,950 | 141,077 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 11,520 | 58 | 17 | 3 | 35,128 | 46,728 |
| 計 | 116,827 | 18,959 | 6,138 | 1,801 | 44,079 | 187,806 |
| セグメント利益又は損失(△) | 14,158 | 62 | △24 | 39 | 986 | 15,222 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|--------|
| 報告セグメント計 | 15,222 |
| セグメント間取引消去 | 676 |
| 全社費用(注) | △2,184 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 13,714 |

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 地域に関する情報

(単位:百万円)

| | 日本 | 北米 | | その他 | 合計 |
|-----|--------|--------|--------|--------|---------|
| | | | 内 アメリカ | | |
| 売上高 | 90,840 | 26,200 | 24,526 | 24,036 | 141,077 |

(注)売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。